

氏名	安中哲也
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4445 号
学位授与の日付	平成23年12月31日
学位授与の要件	医歯学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Serum hepatitis B virus DNA before liver transplantation correlates with HBV reinfection rate even under successful low-dose hepatitis B immunoglobulin prophylaxis
(B型肝炎免疫グロブリンによる予防療法下であっても、肝移植術前の血清HBV DNAは術後HBV再感染に相関する)

論文審査委員 教授 加藤 宣之 教授 山田 雅夫 准教授 大藤 剛宏

学位論文内容の要旨

B型肝炎ウイルス(HBV)関連肝移植における移植後HBV再発は、B型肝炎免疫グロブリン(HBIg)・核酸アナログ併用療法によってほぼ抑制できている。しかしHBIgの至適投与量・期間についてコンセンサスは得られていない。1996年10月から2009年2月に当院でB型肝炎硬変に対して肝移植を受けた32症例について、血清HBVコア関連抗原(HBcrAg)、肝組織中HBV閉環二重鎖デオキシリボ核酸(cccDNA)を用いて検討した。術後に核酸アナログ併用下で、術後早期には高用量のHBIgを投与し、術半年以降はHBs抗体価 >10 IU/Lを目標にHBIgを補充した。移植後にB型肝炎の再発は認めなかった。しかし肝組織中HBV cccDNA、血清HBcrAgはそれぞれ57%、48%で陽性であった。肝移植時の血清HBV DNAおよび血清HBcrAgは、移植後の肝組織中HBV cccDNAと正の相関(それぞれ $p<0.05$, $p<0.05$)がみられた。

論文審査結果の要旨

本研究では、肝移植後のB型肝炎の再発を抑制するために使用されているB型肝炎免疫グロブリン(HBIg)の至適投与量や期間を明らかにすることを目的として、1996年から2009年にかけてB型肝炎硬変に対して当院で肝移植を受けた32症例について、血清HCVコア関連抗原(HBcrAg)と肝組織中閉環二重鎖デオキシリボ核酸(cccDNA)の定量解析を、それぞれ化学発光酵素免疫測定法とリアルタイムPCR法を用いて行った。術後に行ったHBIgと核酸アナログとの併用療法により、B型肝炎の再発は認められなかったが、HBV cccDNAとHBcrAgはそれぞれ57%と48%で陽性であることを明らかにした。

本研究は、B型肝炎の再発が見られない症例においても、低レベルではあるもののHBVが存在すること、そして長期の経過観察が必要であることを示した点において価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。